

ともにたたかう

園長 児嶋 草次郎

今日は、「明倫塾」で、論語を勉強をする日だけど、子供たちみんなに少し話をします。いつもは「静養館」で畳に座って勉強しますが、今日はホワイトボードを使うので、「研修館」です。前から詰めてイスに腰かけてください。職員は一番後にすわってください。大きく分けて二つの話をします。

1、なぜ自分の運命を変えるために、ここでがんばらなければならないのか。

① プライド、誇りを持つことの大切さ

4月29日(水)、30日(木)の2日間、田植えご苦労様でした。みんなそれぞれに頑張って、3反を一日半で終わることができました。空に泳ぐこいのぼりたちに負けない勢いでした。昔ながらの田植法なので、苗取り組の者たちは苗取りの責任をはたし、苗植え組の者たちは苗植えの責任をはたすことで、田植えは順調に進みます。私はこのようなみんなの頑張りを誇りに思います。みんなも誇りにしてよい。日本全国には600ほどの児童養護施設があるけど、こうして、自分たちの食べるお米を自分たちで作るようなところは他にないと思う。

児童養護施設は、全国の国民の皆様の支援によって成り立っている。中には、「親と一緒に住めない、かわいそうな子供たち」と一種の偏見でもって見ている人もいる。同情はされたくないよね。同情されたからと言って、みんなの運命が変わるわけでもない。ここで生活することは、みんなにとっては権利でもある。同情される生活ではない。しかし、権利をあまり主張しすぎると、人は助けてくれなくなる。感謝の気持ちも持たなければならない。

同情されたくないというプライド、誇りは大切だ。それではプライド、誇りとは何なのか。昔、自衛隊の人たちが「税金ドロボウ」と言われた時代があります。今はそんなことを言う人はいない。自然災害が多くなり、色んな災害現場で自衛隊の人たちが活躍する姿を見るようになったし、彼らの「国を守る、国民を助ける」という志も見えて来たから。そのプライド、誇りが私たちにも感じられるようになったからです。今では、国民がその働きに感動して、あこがれるような職業にもなって来た。友愛園の卒園生にも、今、自衛隊でがんばっている者もいるね。

繰り返すけど、ここの生活は国民の皆様の支援によって成り立っている。しかし、自分たちはそれに甘んじることなく、自分たちにできることは精一杯やっている。朝早く起きて園内外の掃除もするし。土曜、日曜には、短い時間だけど、水田で米を作ったり畑で野菜を作ったりして、自分たちの生活を守っている。この主体的生活をプライド、誇りとしなければなりません。みんながプライド・誇りを持って生活していれば、御支援は同情ではなく未来への投資となる。

② 自立したら、外国人とも戦っていかねばならない

私たちが田植えしている水田の隣の畑で、ベトナム人かインド人と思われるアジア系の3人の女性が日本人の指導を受けながらネギを植えていたよね。彼女たちは何のために日本まで働

きに来ているのだろうか。国にいる両親を助けるため、あるいは、弟や妹を学校にやるためだ。給料のほとんどは仕送りしているのだと思う。一所懸命働いていたよね。こんな田舎にまで外国人が進出して来ている

今、多くの外国人たちが日本に来ている。農業だけではなく工場でも働いているし、サービス業でも働いている。みんなは、社会人になったら、こういう外国人たちとも競争していかねばならない。外国人の方が一所懸命働くということになったら、日本人はどんどん職場を追い出されていく。みんなは、ここにいる間に、そういう外国人に負けない生活習慣力、精神力、忍耐力、自律力等を身につけておかねばならない。

③コロナウイルス感染症の蔓延で不景気がやってくる。

みんなも緊急事態宣言で外出・外食ができない状態になっているけど、不要不急の外出を控えよという行政からの指導があつてから、人が街に出かけていけなくなったね。一番困るのが、商店の人たち。サービス業の人たち。レストランが休業になれば、そこに食材を提供する人たちも困る。肉も売れなくなる。これ以上休業が長びけば、従業員の給料も払えなくなるし、家賃も払えなくなり倒産する店も出てくる。国は何らかの保障をしようとするけど、それらはすべて借金。倒産する会社が増えれば国の税収も少なくなっていくわけで、国そのものも借金がどんどん増えていく。悪循環に陥っていく可能性大である。

みんなは、ここにいる間は、食べることに着ることに全く困らないけど、18歳、社会人になったとたんに、今後この社会の大きな不況の波をかぶることになる。セイヤは高校を卒業したら、養豚場に就職する予定だけど、毎年3名採用していたところが、肉が売れないからという理由で、採用を1名に減らすかもしれない。

社会に出れば環境は180度変わる。働かなければお金ももらえない。アパートに住むためには、毎月4万前後のお金を払わなければならない。電気も水道もお金を払わなければストップする。

そういう社会で生き抜いていくためにここで修行している。先ほども言ったよう、どんな環境にも負けない生活習慣力、精神力、忍耐力、自律力等を身につけておかねばならない。

④これから自立していくにおいて整理しておくべきこと

ここには中学生以上の者が27名ほどいます。なんとなく時がすぎれば自然に社会人になるわけではなく、みんなのこれからの進路は4択です。

- a、中学校を卒業して就職する。
- b、高校卒業して就職する。
- c、支援学校高等部を卒業して就職する。
- d、高校卒業後大学まで進学し、専門的な知識・技術・資格を身につけて就職する。

この4つの道のどれかを選ばねばなりません。支援学校を馬鹿にする者もいるけど、支援学校高等部に進学したら、高校1年生の段階から職場実習をします。卒業後働くことを前提とした職業教育です。卒業後就職してつまずいても、支援体制がキチンとできています。素晴らしいと思う。普通の高校では、就職する時はお世話してくれるけど、中途退職したら、後は自己責任となってしまう。友愛園では今年3名が大学進学しましたが、現在、10名ほどが大学に在学中です。

⑤学校の友人たちと自分との違いとは何なのか

昨年家庭復帰したA男は、結局、高校へは行かず、中卒で就職しています。昨年高校に落ちたB男は、家には受け入れてもらえず、茶臼原自然芸術館（障害者通所施設）のグループホームに入り1年間芸術館で働いて、今年度通信制高校に入学しました。なぜ、家庭で守り支援し

てもらえなかったのか。一般家庭の子供たちと自分たちとの違いとは何なのか。みんなは、学校で、友人たちと自分たちとを同じようにとらえているのかもしれないが、実際、違います。違うからここで生活している。その違いを自覚することが一番重要なことかもしれません。

家庭で親と一緒に住めない事情とは何なのか、大きく分けると三つある。

- a、親は自分（たち）の健康や経済的理由で自分の生活を守ることで精一杯で、現在我が子のことまで面倒みきれない。
- b、親から何らかの虐待をうけたので、親と離れる必要があった。
- c、家で親に迷惑をかけるようなことをした。

ここにいるみんながなぜ友愛園に来たのか、この三つのどれかにあてはまると思う。ついでに話しておくならば、園で集団生活しているわけだけど、そのルールは、cに合わせることであります。cの理由で来たものは自己コントロール力が非常に弱い。盗癖があったり友人関係が崩れていたりした者を施設で自由にさせたら、ここは非行の巣になってしまいます。

ここでは表面上は同じように生活しているけど、互いの事情はそのように違うということを入念に入れておかねばなりません。そうしないとルールに対してグチや不満がたまってしまう。それを言い合っているうちに、なれ合い関係が生まれて、流されてしまう。

#### ⑥なぜ修行なのか

家庭から離れてここで生活するようになったことについて、親を恨んでも仕方ない。親も必死に生きて来たけど、結果的にこうなってしまったのです。それをマイナスにとらえるのではなく、運命として受け入れて、ここの生活を通して、強い人間になればよい。自立力をつけて社会に出れば、運命は変わる。その自立力をつける生活を修行と呼んでいるのです。

## 2、なぜ、「家庭に恵まれない子供たちの生活の場を取り上げないで！」の署名活動を再開したのか

先ほども言ったように日本全国に600ほどの児童養護施設がありますが、2、3年前頃から突然施設否定論が出て来ています。平成29年8月に「新しい社会的養育ビジョン」という文書が出されて、乳幼児については75%以上を、学童期以降については50%以上を里親にあずけると言い出しました。それまで里親委託率は20%弱だったのです。里親委託率を上げていくことは悪いことではありません。問題は、その「ビジョン」の中に、乳幼児について、施設への入所を停止するとか、施設の滞在期間を乳幼児は数か月以内、学童期以降は1年以内とするなど書かれてあることです。これはあきらかに施設否定です。施設に長く生活させることを、マイナスにしか考えてないのです。

社会的養護・養育の中に置かれる子供たちに対して「家庭養育」を優先させようとする考え方は良いことですが、施設入所停止とか入所期間を制限するような考え方は飛躍しています。そのバックに何があるのかを考えてみなければなりません。

#### ①なぜ施設否定論が出てくるのか

あえてここでみんなに私のとらえ方を示します。施設否定論の出る根拠です。

- a、施設より里親にあずけた方がお金が安くあがるということ。これは決して政治家の人たちは口にしないことです。子供たちは、あたたかい家庭環境の中で生活させてあげようと言った方が美しく聞こえます。
- b、施設では、子供がちゃんと育てないのではないかという不信感があると思います。高いお金をかけて育てても、期待するような人間に育てないのではないか。一つの数字

がそれを示します。大学進学率を見ると、一般家庭の大学進学率が52%に比べて、児童養護施設の進学率は16%程度です。

- c、施設で色々と問題がおきているということ。思春期の子供たちが集団生活すると、当然のごとく色々な問題が発生します。特に性のトラブルは問題となっています。友愛園でも中学生男子たちが色々と問題をおこしたりしますが、それらの数字が全国的に集計されていくと、施設では問題ばかりおこしているということになります。

②私たちはこの流れにどう対処していったらよいのか

宮崎県でもこの4月より新たに里親委託率の目標が示されました。3歳未満は54%、3歳以上は44%、学童期以降35%です。厚労省の数字より随分低い。先ほども言いましたけど、里親さんにできるだけあずけようとする政策は悪いことではありません。しかし心配なこともあります。アメリカの里親委託率は70%以上ですが、一里親さんの所で生活する期間は平均2年間だそうです。つまり、2年くらいで里親さん宅を転々としていくのです。ちなみに5年以上里親宅で生活しているのは、6%のみだそうです。アメリカの里親制度は崩壊しているとも言われているのです。それを日本はマネしようとしているのですが、日本では絶対そのようなことにしてはいけません。そんなことになれば、大学進学どころではないでしょう。施設と里親とがしっかり連携して進めていかねばなりません。友愛園からも3月に1人里親のところへ行きましたね。ここで生活しているみんなも考えなければなりません。これからは、ダラダラと施設で生活することは許されなくなります。どう対処していったらよいのか。

- a、家庭復帰ができる可能性のある者は、一日も早く家に帰れるように努力することです。「ビジョン」の言う1年以内は無理としても、自分なりに2、3年で自立力を高める目標を持って生活し、早く家に帰れる努力をする。私たち職員も努力しなければならないのですが、本人自身がその気にならなければ、実現はなかなかむづかしい。先ほどの親に迷惑をかけたというケースに該当する者は、親の信頼、児童相談所の信頼を取りもどすように努力すること。生活習慣や自律力を身につけるように最大限の努力をしてください。私から何度もそう言われている者もこの中にいるけど、あまり努力しているようには見えません。
- b、家に帰ることがどう考えても難しい者は、将来への目標や志を明確にして、その目標を実現できるような強い精神力、自律力等を身につけるべく努力すること。そう気持ちが決まったら一般家庭以上にここでは自分を伸ばせます。ここは人材養成施設です。
- c、みんなのやるべきことはaかbです。それでは私たち職員のやるべきことは、まず結果を出すことです。先ほど、大学進学率で一般家庭と比べて大きな差があることを示しましたが、やはりこれは何とかしなければなりません。これでは「施設ではダメだ」と言われても、言い訳しか返せない。友愛園においては、平成27年以降6年間の大学進学率は、54%であり、決して一般家庭の進学率に劣りません。現在、10名ほどが大学に在籍中です。この5月には、延岡市内に大学生専用の「自立援助ホーム」を作り、5月1日より3名が入居しましたね。
- d、もう一つの対処法が国民の方々へのアピールです。「友愛通信」にも載せたのでみんなも知っているように署名活動がそれになります。児童養護施設では、思春期特有の問題も起きるかもしれないけど、将来への夢や志を持ってがんばっている者もいるんだということを国民の皆様に分かっていただく。今春、大学を3名卒業して、1名は小学校の先生になり、1名は乳児院の保育士になり、1名は障害児施設の指導員になったよね。自

衛隊でバリバリ頑張っている者もいる。

集まった署名は、最終的には厚生労働大臣の所へ持っていき、児童養護施設の存在意義・価値について訴えなければなりません。今、日本国民みんながコロナウイルスと戦っているけど、ここにいるみんなも、コロナ相手に戦うだけではなく、それぞれに課せられた運命とも戦っていかなければなりません。そして、みんなで施設否定論とも戦っていかなければなりません。